

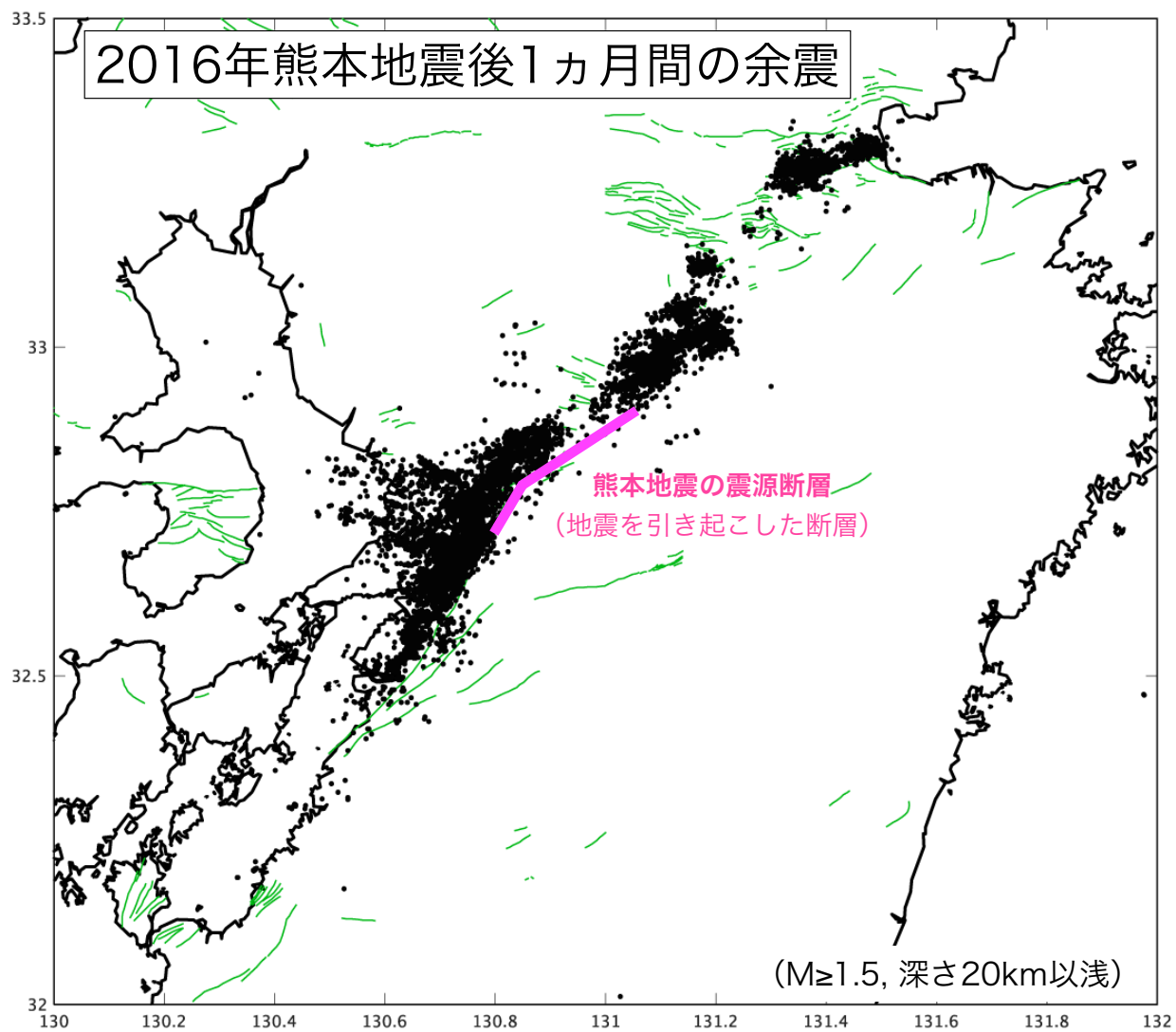


応力伝播と地震活動変化からみた 平成28年（2016年）熊本地震と令和8年（2026年）熊本地震

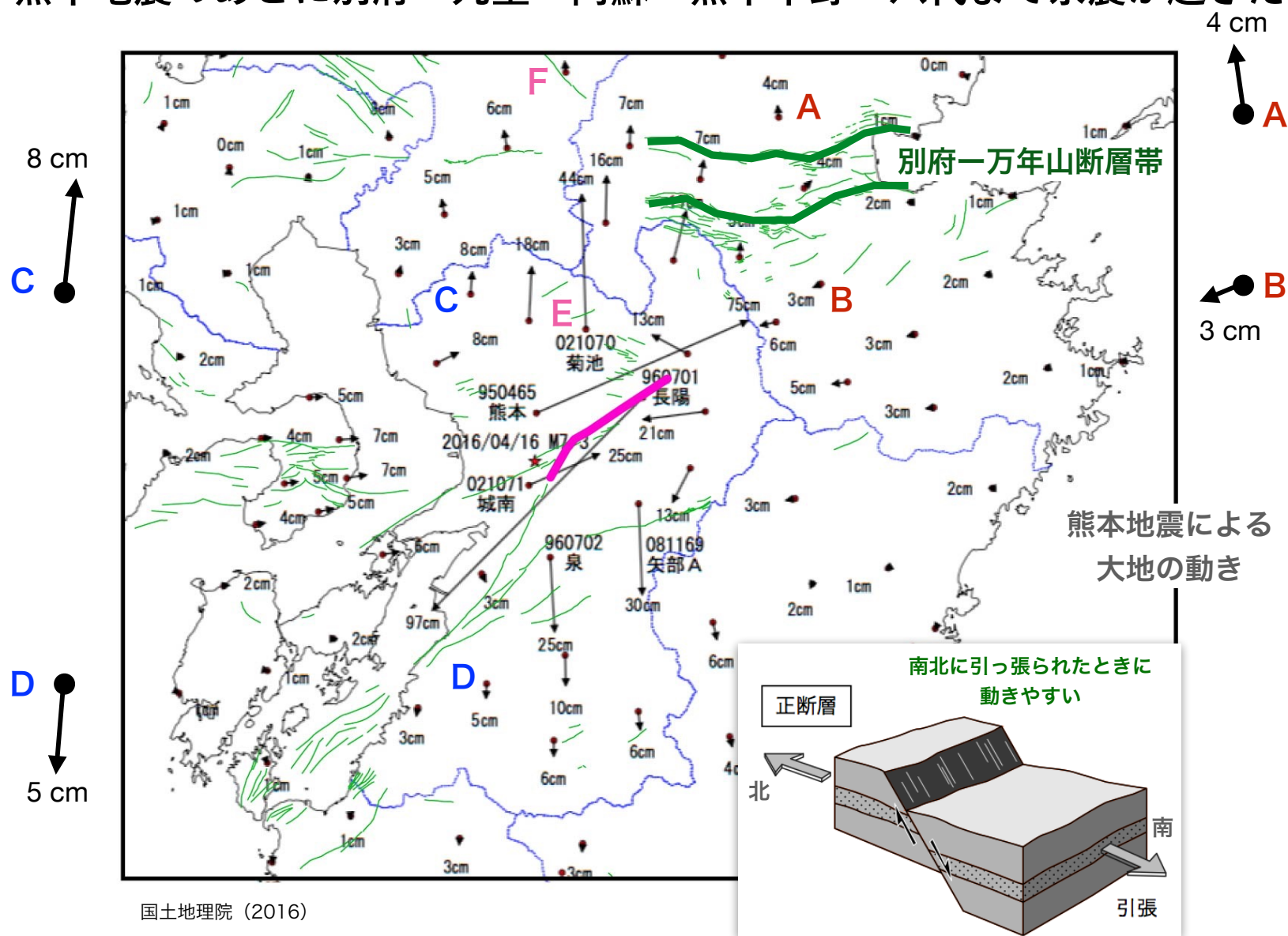
東北大学災害科学国際研究所 遠田晋次

謝辞：地震活動の解析に当たっては、気象庁一元化震源（暫定も含む）、防災科研F-netメカニズム解を使用した。
現地調査では土廣災害対応基金の支援を受けた。

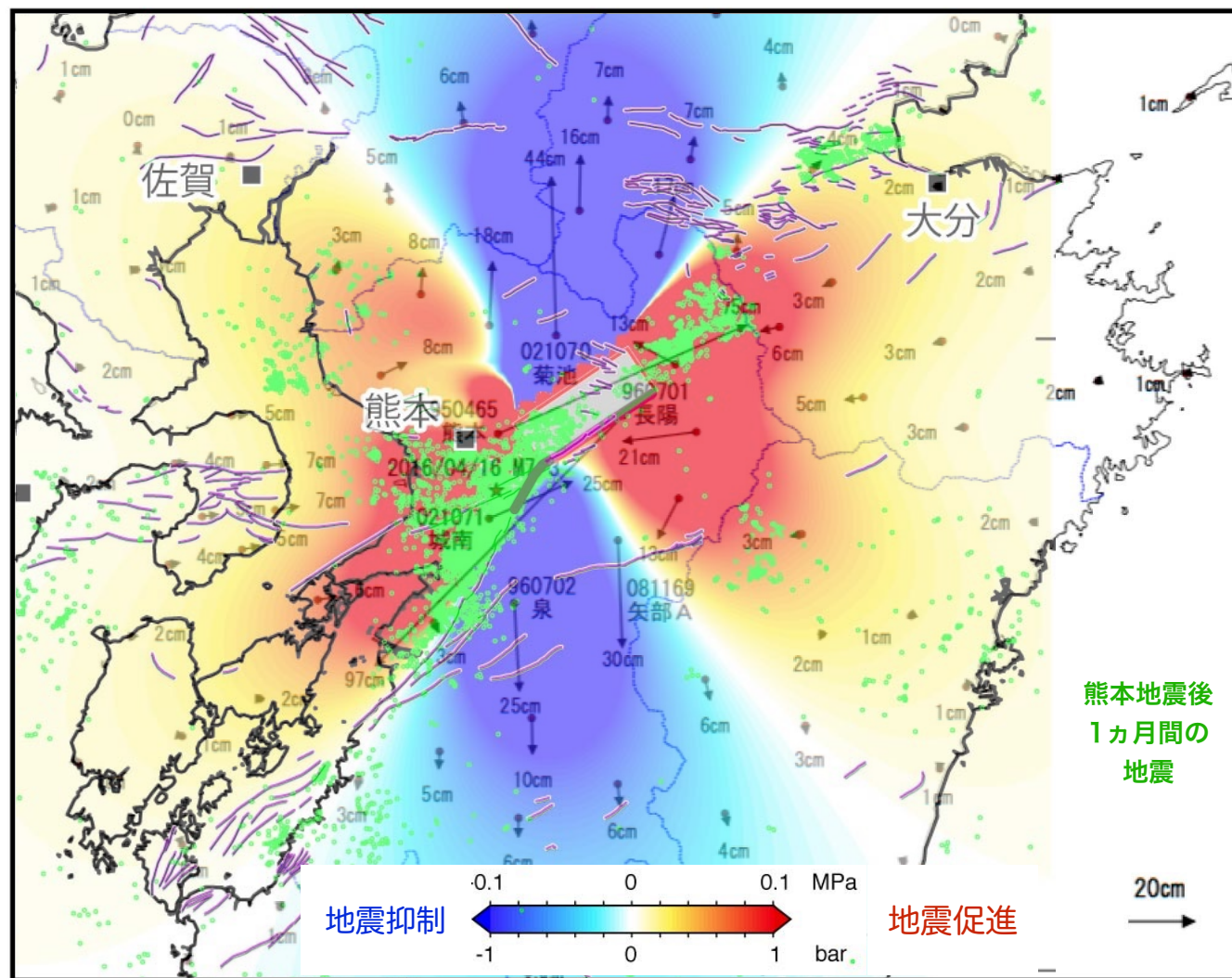
2016年熊本地震のあとに別府・九重・阿蘇・熊本平野・八代まで余震が起きた仕組み



2016年熊本地震のあとに別府・九重・阿蘇・熊本平野・八代まで余震が起きた仕組み



2016年熊本地震のあとに別府・九重・阿蘇・熊本平野・八代まで余震が起きた仕組み

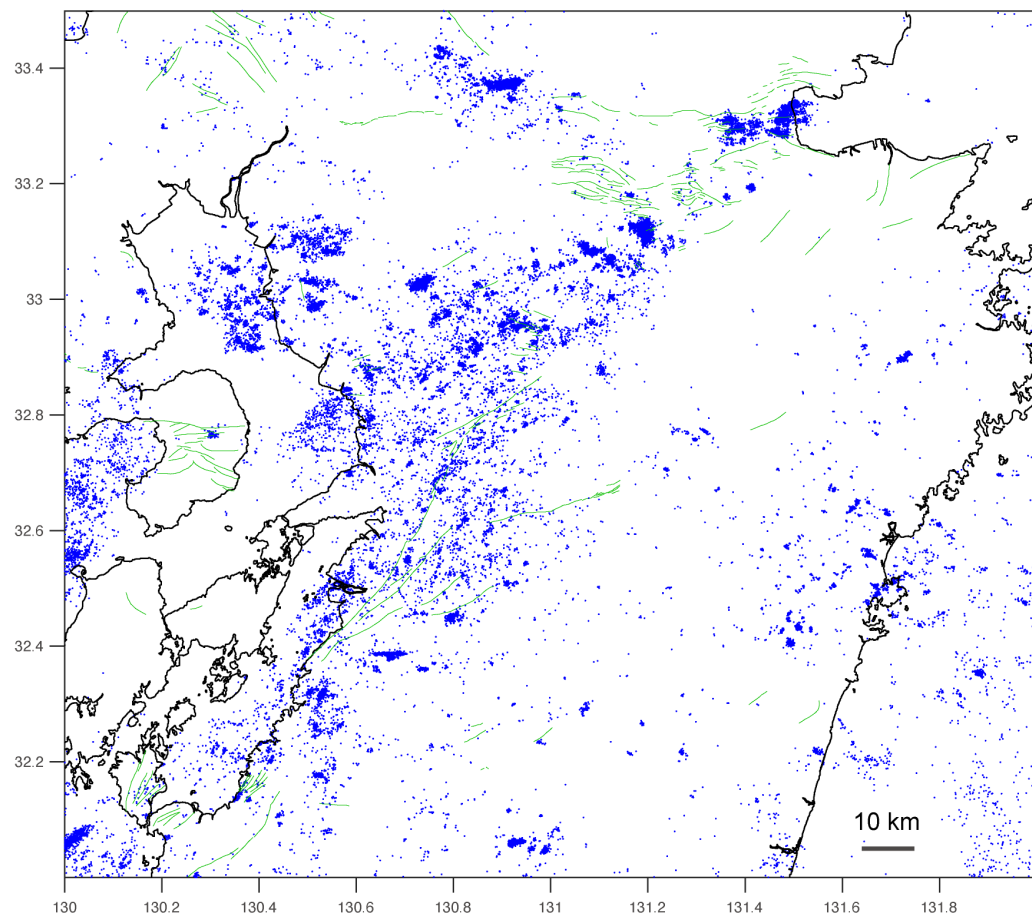


国土地理院 (2016) に活断層図を重ねたもの

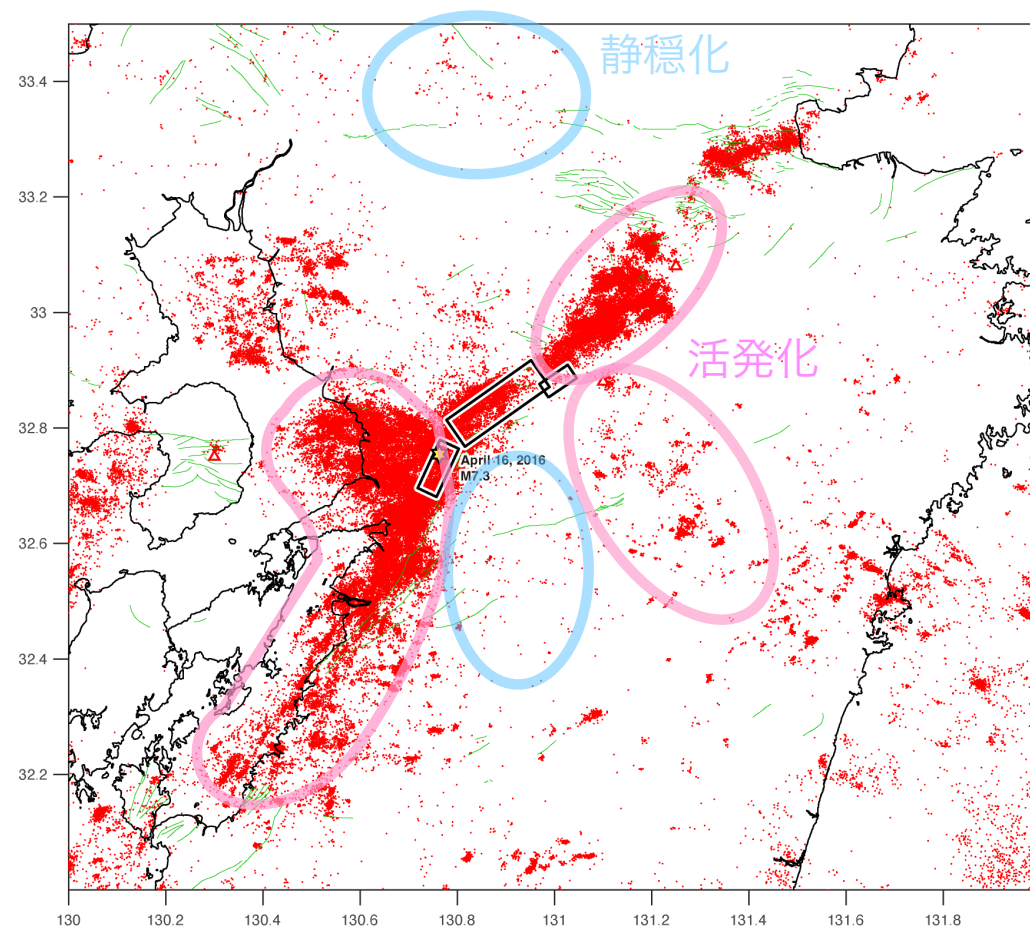
☆ 固定局: 福江 (950462)

その後10年間、九州中央部の地震活動はどうなった？

2016年熊本地震前10年間

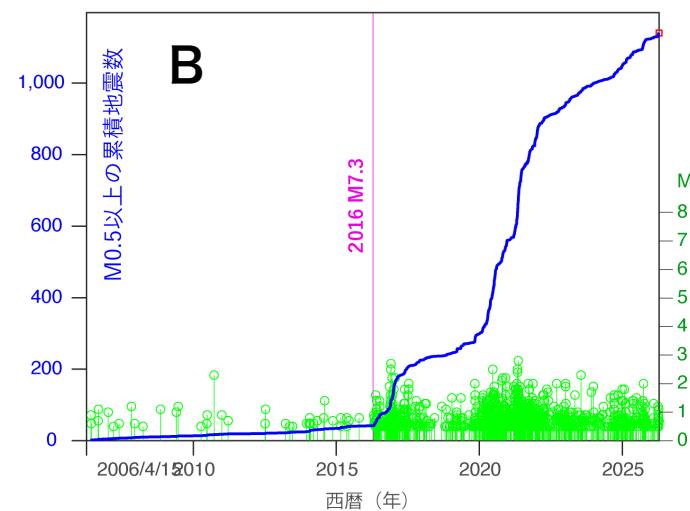
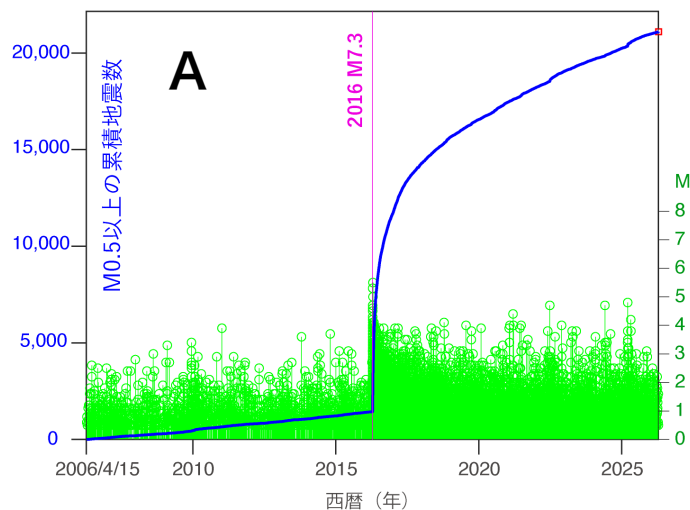


2016年熊本地震後10年間

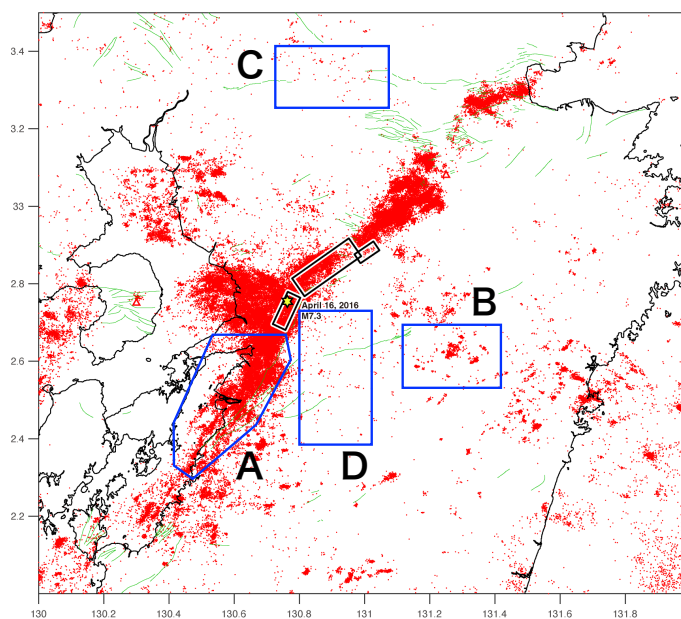


$M \geq 0.5$ & Depth ≤ 20 km

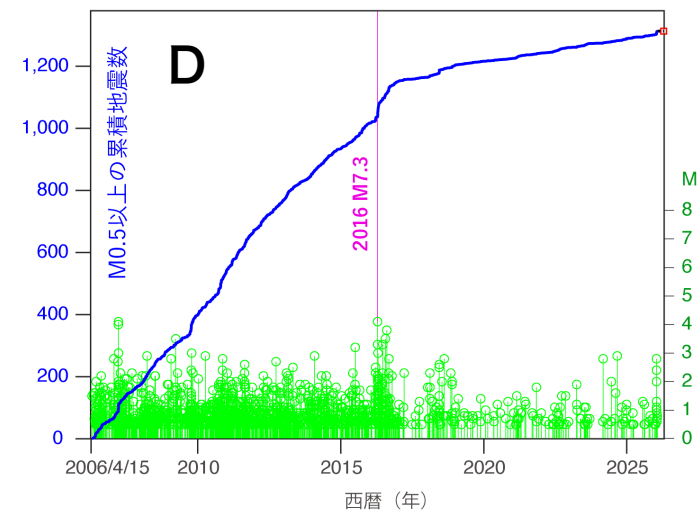
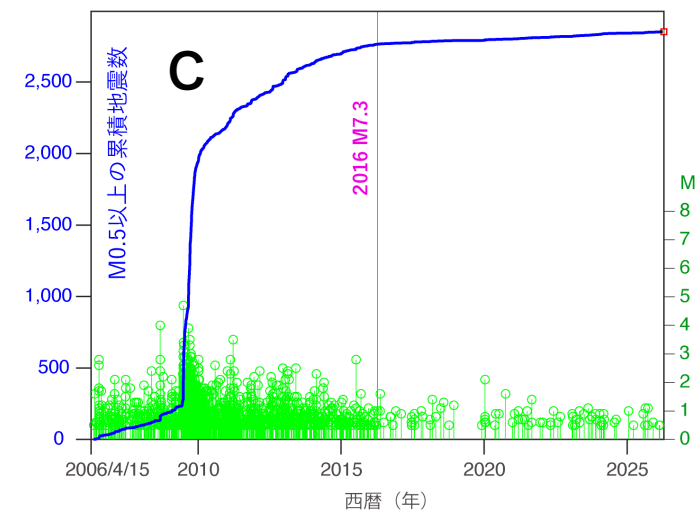
その後10年間、九州中央部の地震活動はどうなった？



2016年熊本地震後10年間

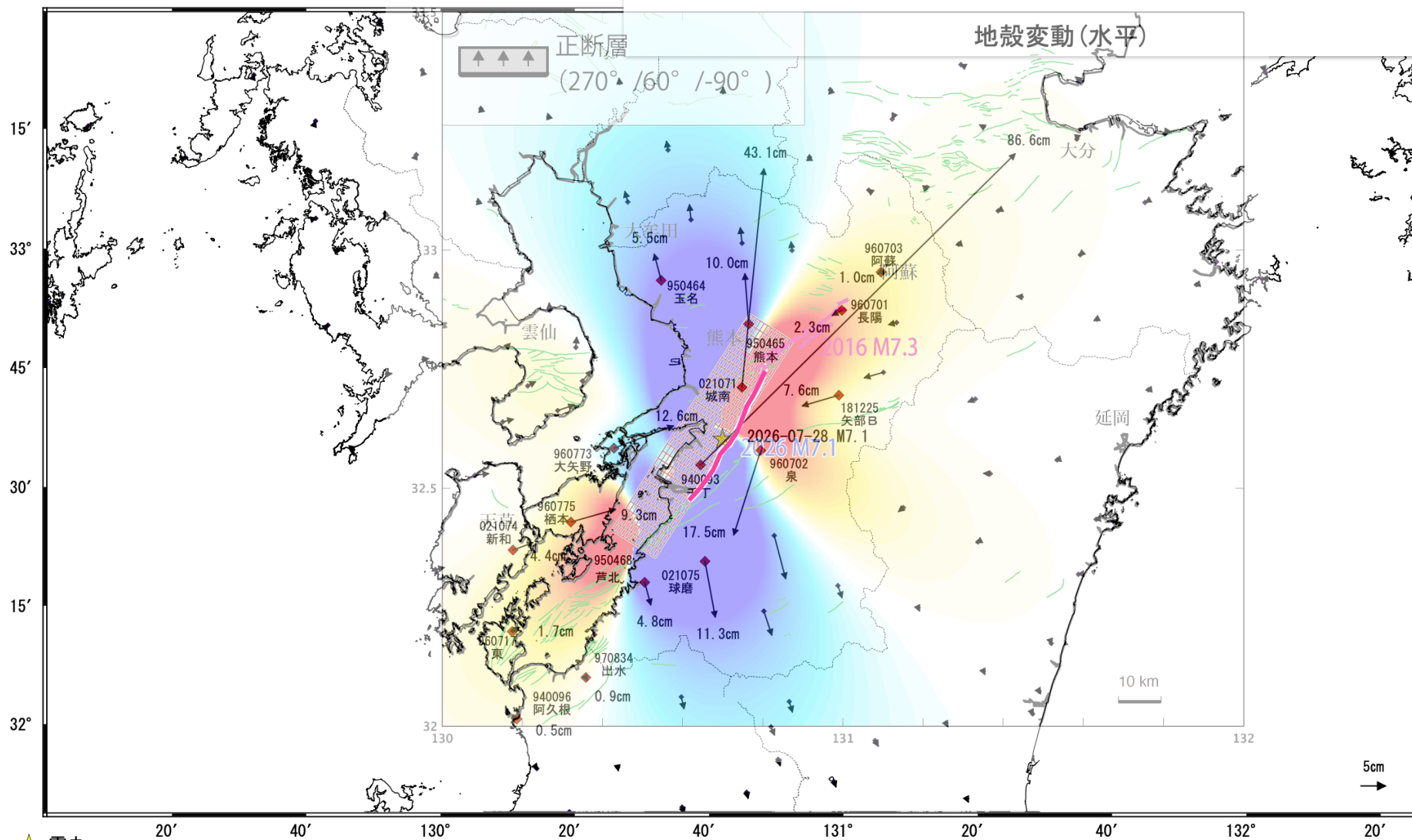


$M \geq 0.5$ & Depth ≤ 20 km



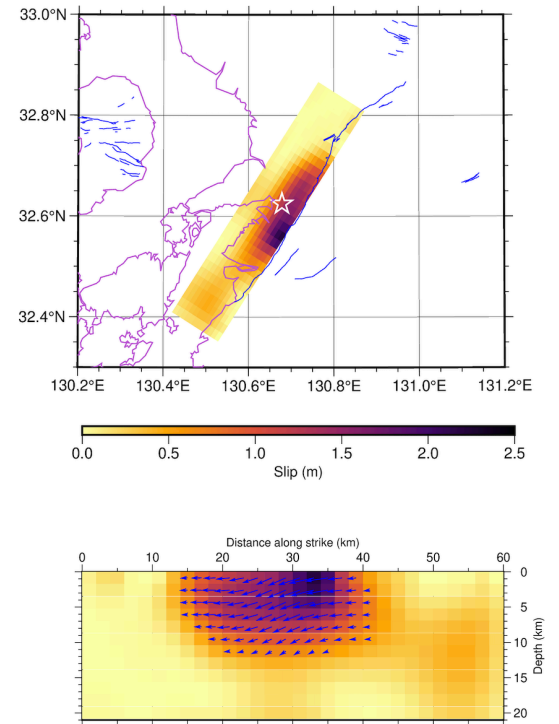
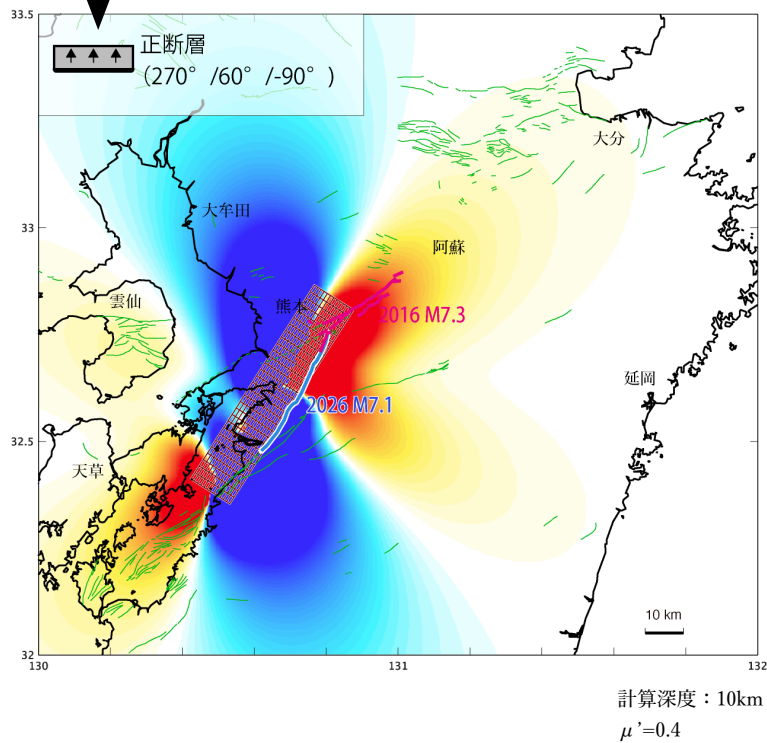
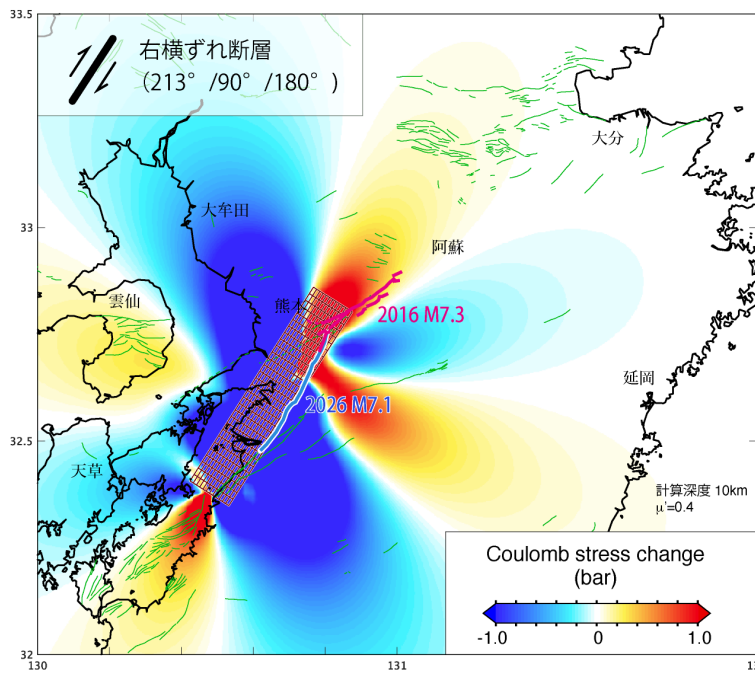
基準期間:2026-07-21 00:00~2026-07-27 23:59 [R5.1:速報解]
比較期間:2026-07-28 21:00~2026-07-29 05:59 [Q5.1:迅速解]

令和8年熊本地震(7月28日 M7.1)前後の地殻変動(暫定)



令和 8 年（2026年）熊本地震によるクーロン応力変化

影響を受ける断層のタイプ

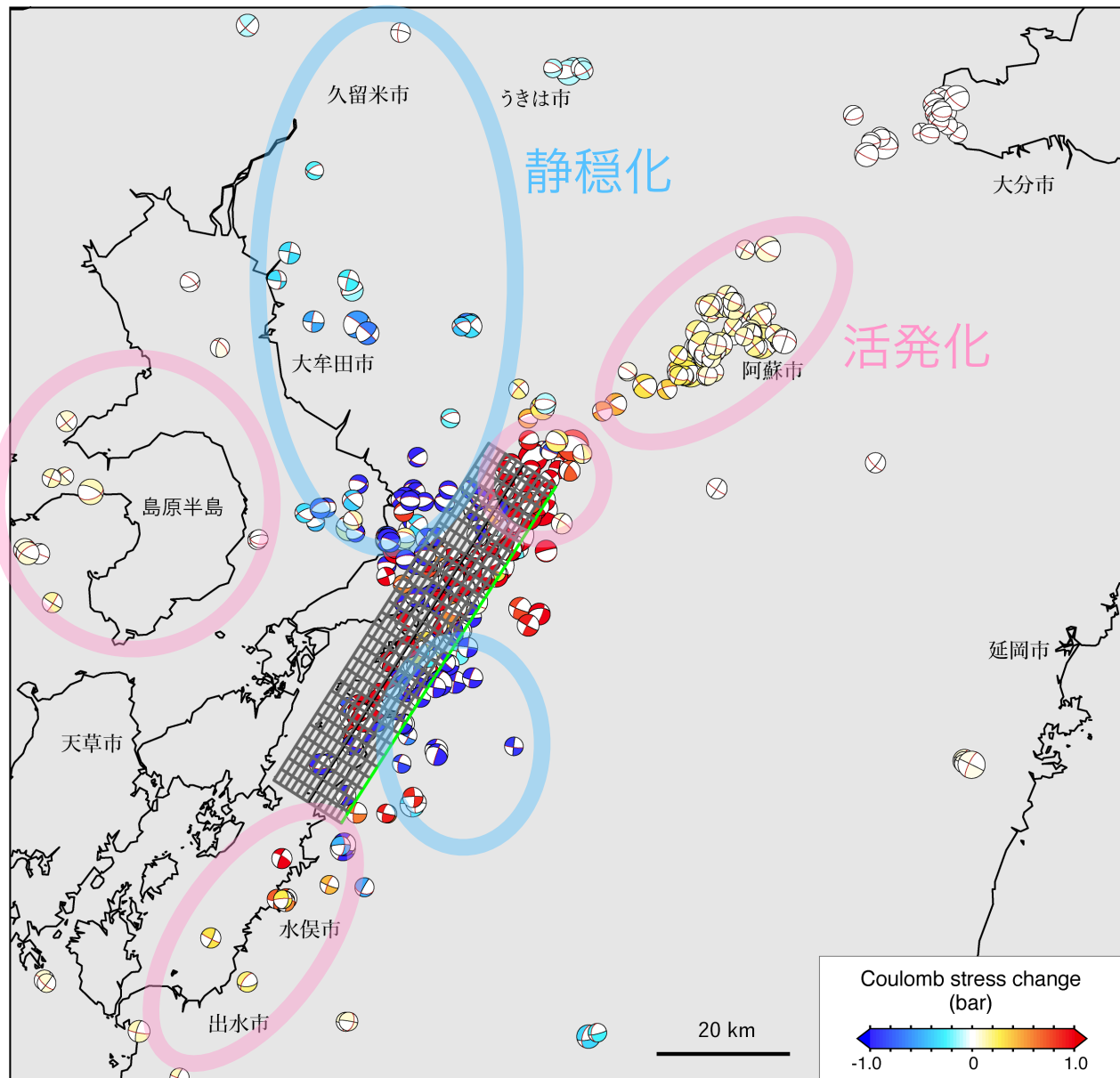


震源断層モデル
岡田悠太郎・福島洋（2026）

令和8年熊本地震による 地域毎の断層面に対する クーロン応力変化

防災科学技術研究所

F-netメカニズム解（1997-2026年7月27日）を使用

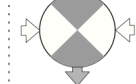
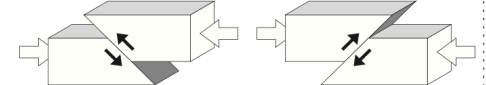


発震機構解〔CMT解〕について

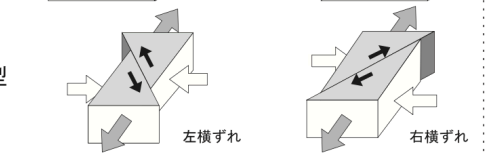
圧力軸に注目した場合の例



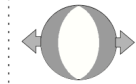
逆断層型



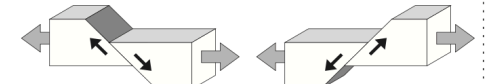
横ずれ断層型



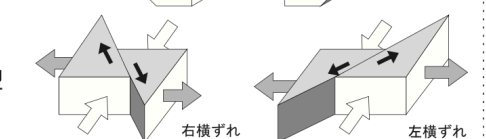
張力軸に注目した場合の例



正断層型



横ずれ断層型



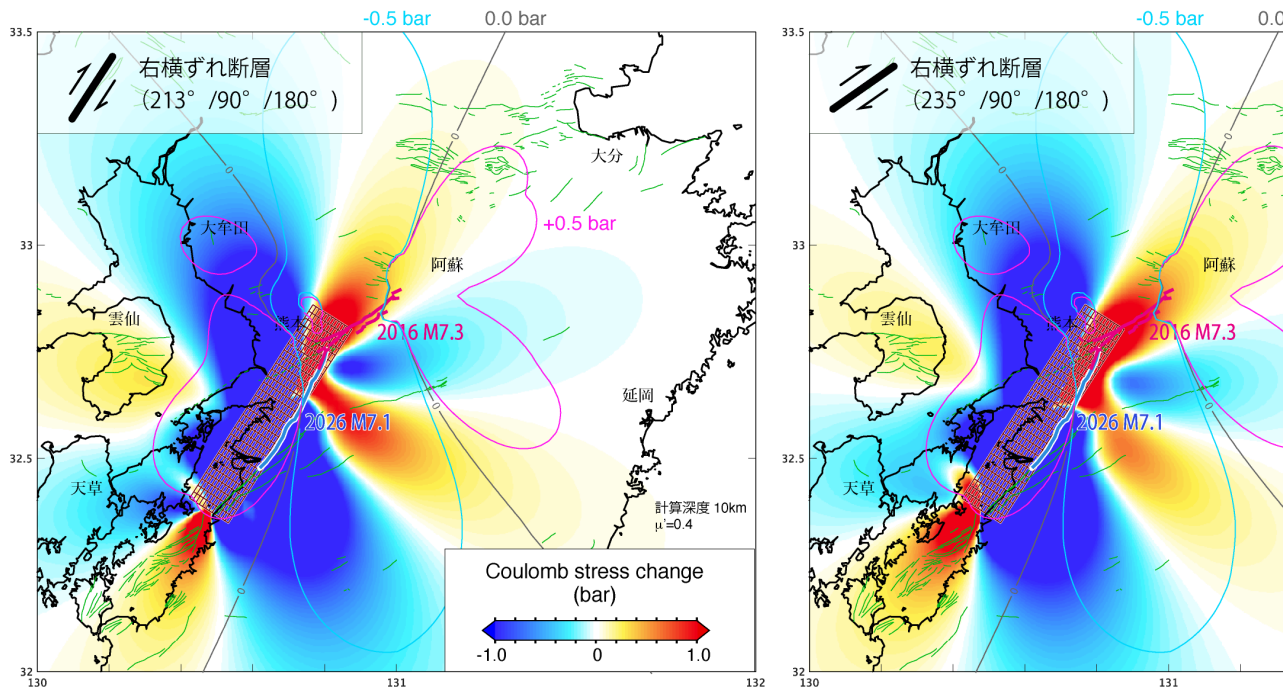
圧力（押す力）

張力（引く力）

断層がずれる方向

気象庁作成のメカニズム解の解説

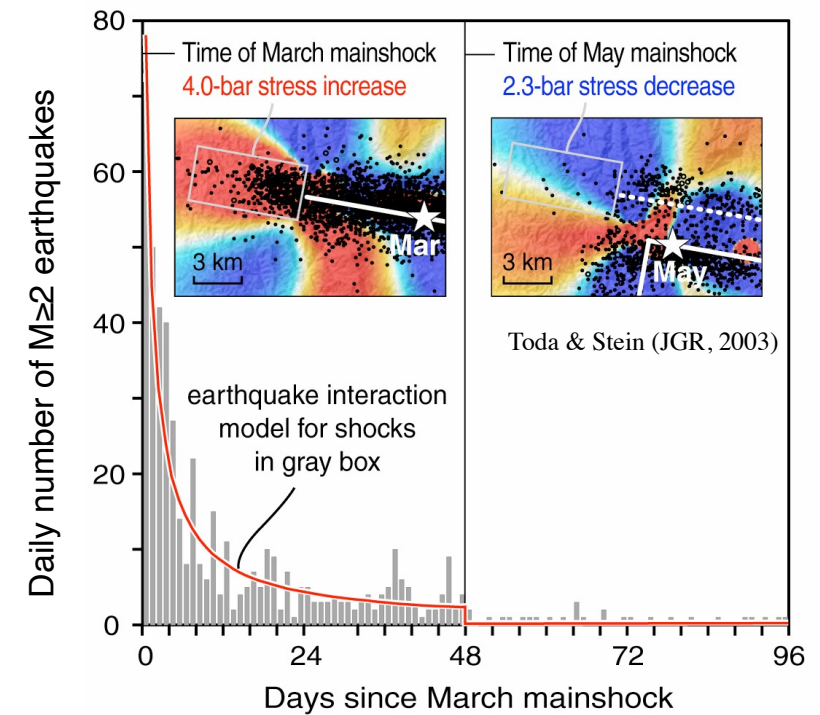
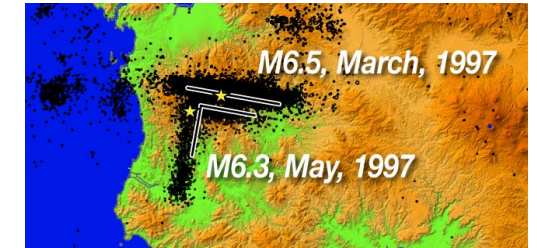
2016年 (M7.3) と2026年 (M7.1) 2つの応力ステップによる重複効果



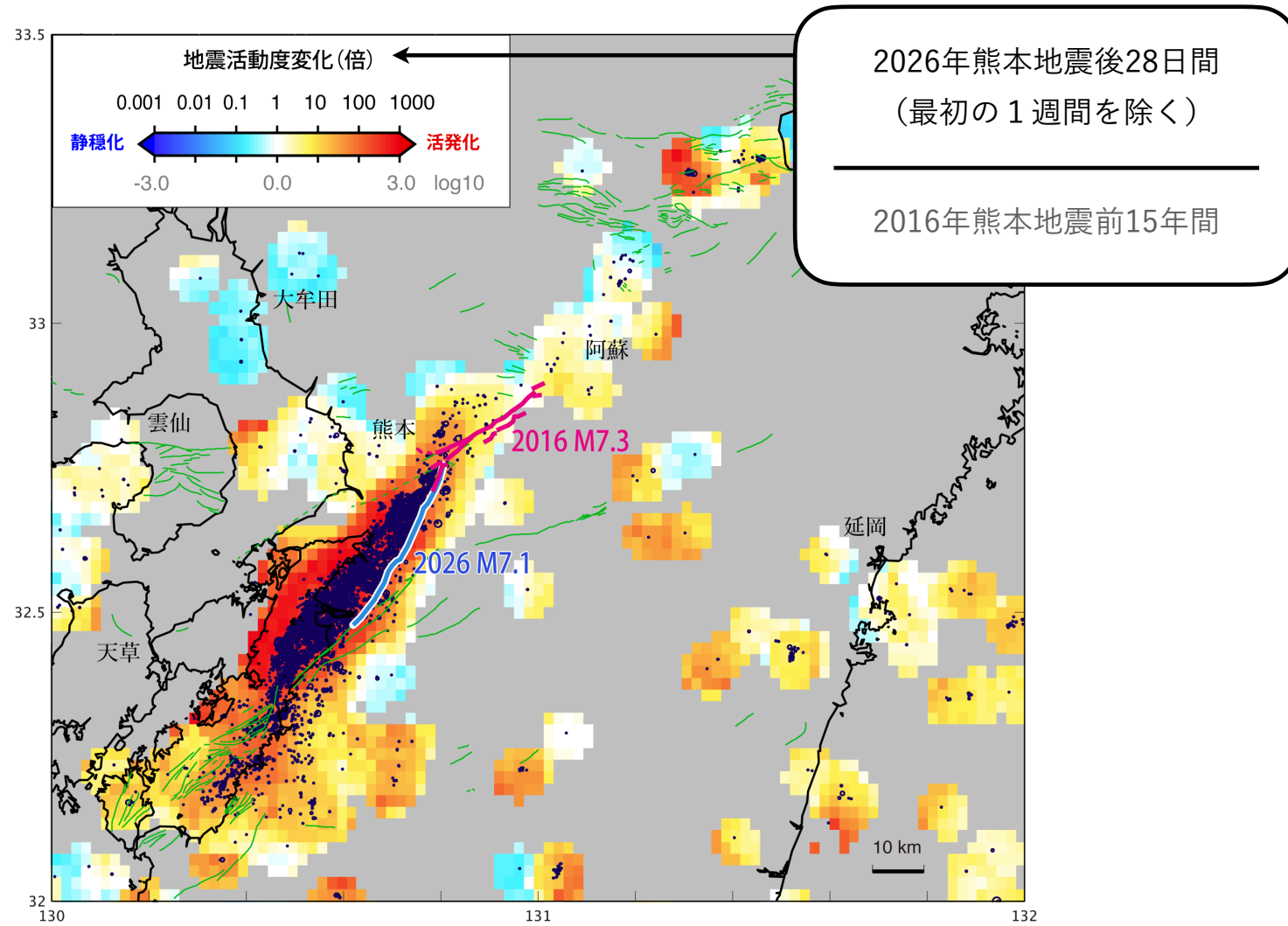
コンター：平成28年（2016年）熊本地震によるクーロン応力変化

八代海，島原半島，阿蘇，宮崎県北部は
2016+，2026+

1997年鹿児島県北西部地震 (M6.5+M6.3) による地震活動の変化

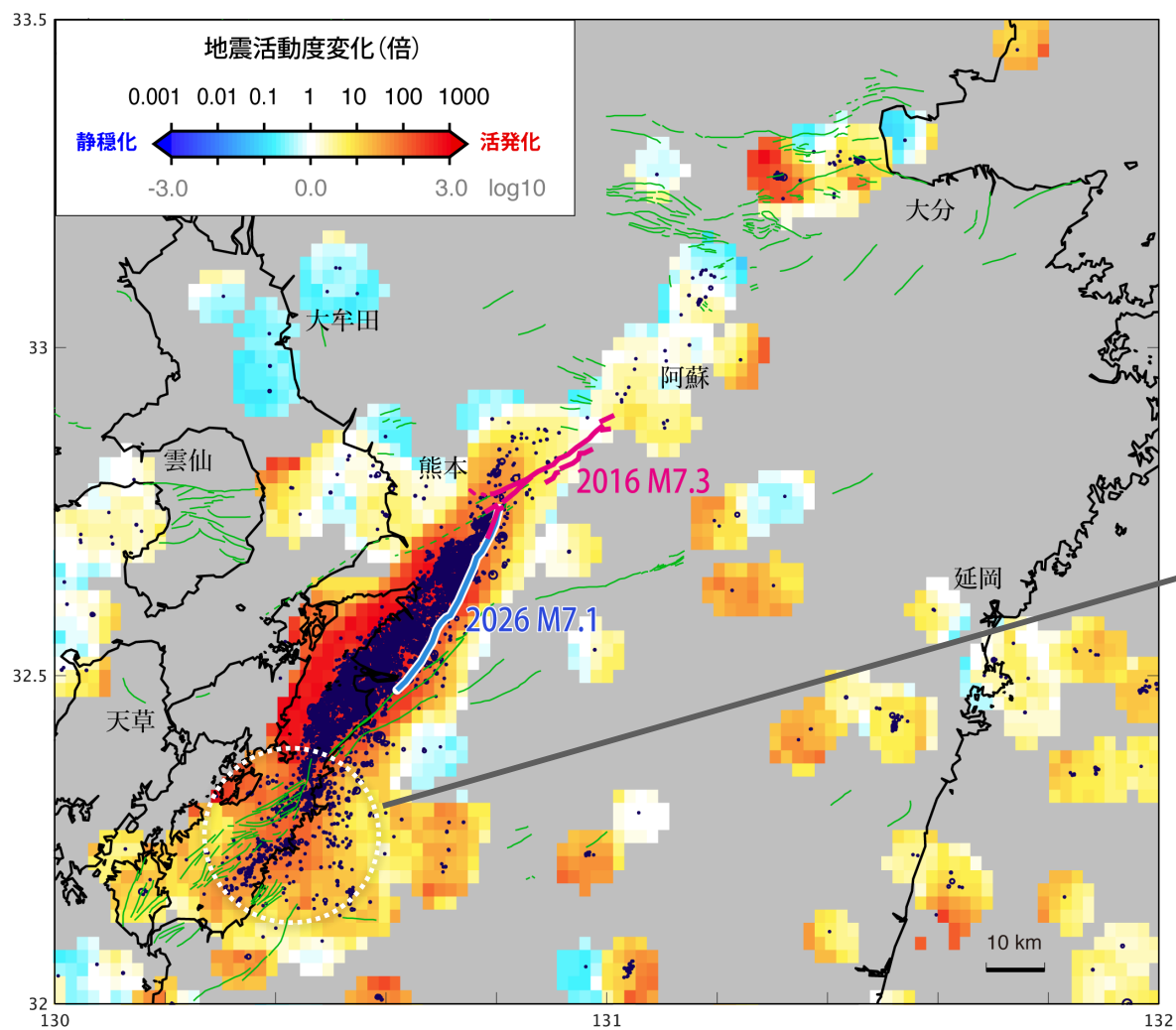


日奈久断層帯の南部，未破壊域でも余震活動活発



気象庁一元化震源(暫定) $M \geq 0.5$, 深さ20km以浅を使用(2026年8月19日までのデータ)

日奈久断層帯の南部，未破壊域でも余震活動活発



気象庁一元化震源(暫定) $M \geq 0.5$ ，深さ20km以浅を使用(2026年8月19日までのデータ)

